

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の見える所に提示して共有し、常に心掛けています。カンファレンスで職員全員で話し合いケアについて統一を図っています。	理念については食堂に掲示し来訪者にもわかるようにし、カンファレンスの席上でも理念の確認を行い利用者に寄り添う支援に繋げている。家族に対しては利用契約時に説明すると共に2ヶ月に1回発行されるお便り「まんでん通信」に掲載し取り組み姿勢をお知らせしている。幅広い年齢層の職員が勤務しているが理念の持つ意味をよく理解し日々の業務に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新聞を作成し回覧をお願いしています。行事を行う時は足を運んでいただけるように通知をしています。	「地域の皆様と共に歩みます」という理念を基に、開設以来、地域との関わりに力を入れた活動を進めている。自治会費も納め地域の一員として活動している。例年であれば、町社会福祉協議会主催の「ふれあい広場」に作品展示で参加したり、ホームの行事には近隣住宅にポスティングで案内し地域の皆様にも来訪いただき利用者と共に楽しいひと時を過ごしていただき、また、楽器演奏等のボランティアの来訪も定期的にあり利用者も楽しみにしているが、昨年春以降、新型コロナの影響を受けすべての活動が出来ず残念な状況が続いている。新型コロナ収束後には積極的に活動を再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で認知症関連講習会を開催します。運営推進会議等で話をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告をして意見要望等を聞き話し合いサービス向上に努めています。	通常であれば、家族代表、自治会長、隣組組長、民生委員、消防団長、駐在所署員、役場担当者、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催し、活動報告、状況報告、評価、要望、助言等を頂きサービスの向上に繋げている。現在は新型コロナの影響を受け書面での開催となり会議資料とお便り「まんでん通信」をお届けし電話でご意見を頂きサービスの向上に繋げている。新型コロナ感染レベルの状況を見て会議を開く予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新時、担当者と連携をとっています。書類提出等は郵便ではなく直接担当者に届けるなどして話す機会を作っています。	役場高齢福祉課、地域包括支援センターとは、きめ細かく連携を取り様々な事柄について話をし、待機者紹介等についても相談している。そのような中、毎年7月に行われる「流しソーメン」のレクリエーションに参加いただいているが、今年は新型コロナの影響を受け中止になり残念な状況となっている。介護認定更新調査については調査員が表玄関を避け、北側玄関よりホームに来訪していただき、家族、職員立ち合いの上行っている。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて提示しています。ご家族とその都度話し合い相談しています。ケア会議で全員で学習をしています。	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠されているが出入りをチャイム音で知らせるよう工夫されている。外出傾向の強い利用者があるが職員と共に出掛け散歩したり玄関先の草取り等を行い落ち着いていただくようにしている。職員はきめ細かな所在確認を行い安全確保に努めている。また、ベットよりの落下防止を図るためマットを使用されている方がいる。年2回、法人内で身体拘束の研修会を行い、拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議で全員で学習しています。虐待防止の徹底について提示しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用していませんがケア会議等で復命しています。今後、必要性もあるので活用できるように学びたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明し同意を得る様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に現在の様子等を連絡し訪問時等に意見要望をお聞きしたり話を伺うようにしています。	全利用者意思表示の出来る状況であり、問い掛けに對しての反応から思いを受け止めるよう心掛けている。家族の面会は新型コロナの状況によって左右されているが玄関先で10分間位の面会を行っている。現在、また、感染拡大の様相を呈しており自粛状態になっている。利用者の状況はホーム便り「まんでん通信」をお届けしお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見を聞くようにしています。管理者は常に意見や提案を話しやすい環境の整備に努めています。	毎月28日の19時～21時の間、職員ミーティングを行い、活動計画の確認、利用者一人ひとりの状況確認、昼間・夜間の利用者や職員の困ったことなどを話し合い、アットホームな雰囲気を大切にスタッフチームワークを図り、支援の向上に繋げるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調管理には十分注意しています。職員それぞれが意見要望等を話しやすいように環境の整備に努めています。		

グループホームまんてん

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等には案内等を掲示し、出来る限り参加できるようにしています。ミーティングでも報告しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	できる限り機会を作っています。サービスの向上を目指しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の様子を見たり、お話しています。ホーム内の見学もしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が話しやすいような環境作りに努め、これまでの経緯などをゆっくりと聴くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご本人の思いを聴きながら信頼関係を築くとともに、必要としているサービス支援を考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが笑ったり・喜んだり・悲しんだり・困ったと感じ、時には人生相談をしたり助言をして頂いたり信頼関係を築くとともに共働しながら生活するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にもできる限り来所して頂き、ご本人とゆっくり過ごせるようにしています。イベント等を計画し参加して頂けるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いに来て頂きやすい環境作りに努めています。地域の方々や触れ合う場所に向いたり、知り合いの方々や会える機会を設けています。	通常であれば、友人、親戚の来訪があるが、現在は新型コロナの影響を受け来訪自粛という状況が続いている。新型コロナ収束後には、また、再開予定である。そのような中、新型コロナの感染状況を見つつ地域のスーパーまで職員と共に「おやつ」を買い出しに出掛けることもある。また、年末には手づくり年賀状を作成し家族とやり取りをしている。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に入る時間以外は共同スペースで職員も一緒に過ごしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外でお会いするとお互いに声をかけたり、ホームにも顔をだしたりしてくれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から思いや意向を聴ける様に機会を作っています。話しやすい環境作りにも努めています。	1対1で話をする時間を大切にし利用者の意向を受け止めるようにしている。また、日々の気づいた言動等は個人記録の中に集約し、常に確認しながら思いに沿えるよう支援している。入浴後の洋服選び等は二者択一での提案を行い、おやつは複数の物を籠の中に入れて好みの物を選んでいただくようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にできる限り教えて頂いたり、ご本人とのお話の中から聞き出しています。話しやすい環境作りにも努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事・出来ない事・嬉しい事・嫌な事など普段の生活や会話の中から見つけ出して記録し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人となるべく一緒に考え作成しています。カンファレンスでケアのあり方など意見交換したり連絡ノートを活用しています。ご家族にも連絡しています。	職員が日常の中でモニタリングを行い、個人記録も参考に月1回のカンファレンスの席上、職員間で気づいた事柄について意見を出し合い、家族からお聞きした希望も反映しケアマネージャーがプランを作成し日々の支援に取り組んでいる。入居時は短期の計画を作成して様子を見て、その後、基本的には6ヶ月での見直しを行い、状況に変化が見られた時には随時の見直しをし利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にご本人の言葉・エピソードなどを記入しています。		

グループホームまんてん

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出や病院受診などの外出には柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員に地域の消防・警察・民生委員・地域の役員の方々などお願いしホームの理解を頂き協力して頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族の要望に応じ職員同行又は代行しています。情報提供もし、協力医では1か月に1回の往診を行っていただいています。	入居時に医療機関についての希望をお聞きしているが、現在は全利用者がホーム協力医の毎月第一木曜日の往診で対応している。また、パート看護師が勤務しており、日々の健康管理に合わせ医師との連携を取り万全な医療体制を整えている。薬については契約の薬局より配達されている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しています。24時間連携が取れる様になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し退院までの間、ご家族や病院と連絡を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご本人とご家族に説明し方針を話し合い重度化に伴う同意書を頂いています。	重度化、終末期に向けた指針があり、利用契約時に家族に説明をして同意を頂いている。終末期に到った時には主治医の往診時に、看護師、管理者で話し合い、家族に連絡を取り重要事項についてサインを頂き医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。一年以内に3名の看取りを行いコロナ禍という状況下ではあるが、家族については表玄関でなく北側玄関より居室に入っただき、共に最期の時を過ごしていただくことで感謝されている。また、カンファレンス時に管理者と看護師が講師となり看取りについての心構えの研修を行い、看取り支援に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急は講習会を受けています。マニュアルなどに表示しています。		

グループホームまんてん

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員の方の指導の下、利用者さんと共に避難訓練を行っています。運営推進会議でも要望しています。	年2回防災訓練を行っている。今年はコロナ禍という状況下でもあり消防職員の参加が難しい状況となり、防災会社の協力を得て実施した。水消火器を使っての消火訓練、利用者全員外へ移動しての避難訓練、消防署への通報訓練、緊急連絡網の確認、防災機器の点検等を行い防災への意識を新たにしている。備蓄については「おかゆ」「水」「レトルト食品」等が3日分備えられている。なお、当ホームは地域の避難場所ともなっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを大切に考え声掛けをして寄り添い支援するようにしています	言葉遣いには気配りをし上から目線にならないよう気を付け、方言も交えながら親しみを持って接するようにしている。入室の際には勝手に入らないよう必ず声掛けをして了解を得て入室するように徹底している。また、排泄用品の保管は人目につかない所に保管するよう心掛けている。呼び掛けについては希望を聞き、「苗字」か「名前」をさん付でお呼びしている。カンファレンスの席上気づいたことを話し合い、気持ち良く過ごしていただけるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせた声掛けをして表情や気分を読み取ったり日々の会話の中で働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしてきたかを把握して、一人一人のペースを大切に、それに合わせて生活して頂けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る人には自分で選び着替えていただき身だしなみも見守りで整えて頂いています。できない人には一緒に着替えて身だしなみも整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事をしています。できる方とは一緒に準備や後片付けをしています。	自力摂取の方が半数弱、一部介助の方と全介助の方が数名ずつという状況である。献立は法人の管理栄養士が立てたものを用い、調理職員2名が昼食、夕食を調理してお出ししている。コロナ禍でもあるが職員も共に話題を提供しながらの食事の時間を過ごしている。お手伝いは力量に合わせ「野菜の下処理」「盛り付け」「後片付け」等に参加していただいている。外食が難しい状況下でもあり時折「かつ丼」「親子丼」「玉子丼」等をテイクアウトし楽しいひと時を過ごしている。尚毎年7月に行っている「流しソーメン」が今年はコロナの影響を受け中止となり残念な状況であるが、来年度は収束して出来る事を願っているという。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調と摂取量を把握し看護師とも相談しています。好きなものや食べやすい物をお出しするようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをしています。できない方は口腔ケア用のウェットティッシュでケアしています。毎日義歯の洗浄も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄記録を取り、パターンや習慣を職員全員で共有し把握して支援しています。	一部介助の方が三分の一、全介助の方が三分の二という状況である。一部介助の方は排泄表を確認しながら状況に応じ声掛けし、トイレにお連れしている。全介助の方については起床時、おやつ前、昼食前、午後のおやつ前、夕食前、就寝前の6回定時の確認をして気持ち良く過ごしていただくよう心掛けています。また、排便促進を図るべく食物繊維、お茶、乳製品等の水分摂取にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人排泄記録を取り看護職員・介護職員・調理職員で共有し予防に心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る方は自己決定して入浴して頂いています。体調や気分配慮しながら支援しています。入浴表を作成し、週に2~3回は入浴できるよう支援しています。	一部介助の方が三分の二、全介助の方が三分の一という状況で、大半の方がリフト浴使用となっている。入浴拒否の方はなく週2回の入浴を行っている。入浴後にはスポーツドリンク等の飲み物を楽しませている。また、季節により「菖蒲湯」「かりん湯」「みかん湯」等を行い季節感を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい時に居室や共同スペースにあるコタツで自由に休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスなどで様子を確認し看護師と連携しています。連絡帳など活用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとなどを見つけ一緒に楽しみ、気分転換をしています。出来る事も一緒に見つけ声掛けをお願いしています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り戸外へ出かけるよう支援しています。(ドライブ・買い物・花見・イベント等)ご家族とも一緒に気軽に出かけられる環境作りをしています。	外出時、自力歩行の方と歩行器使用の方が若干名ずつで、車いす使用の方が三分の二強となっている。天気の良い日には玄関前に出て草取りをしたりホームの周りを散歩し、また、裏庭の畑の野菜の収穫等を楽しんでいる。新型コロナ禍の状況が続き外出が難しくなっているが、季節に合わせてお花見などを兼ねドライブに出掛け、近くの道の駅で「ソフトクリーム」を楽しんだりしている。新型コロナ収束後には年間計画に従い積極的に外出を楽しむ予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など希望があれば自由にお話して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節を感じられる物を飾ったり置いたりしています。温度湿度計で管理しています。利用者様の声に耳を傾けています	広々としたホール兼リビングは天井も高く開放感が漂っている。平屋造りの当ホームは表玄関、北側玄関、裏玄関と3ヶ所の玄関があり災害時の避難も考慮された造作となっている。ホームの裏庭には広々とした畑もあり、元気な利用者の活躍と憩いの場となっている。また、季節感を味わえるよう工夫をし、クリスマス、正月、七夕等にはホーム内を季節の飾り付けで彩り、楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置き場所づくりをしています。共同スペースに畳のスペースがあり、コタツなど自由に過ごしていただける様になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物品を持ってきて使用して頂いています。	各居室には床暖房とルームエアコンが設置され、年間を通して快適な生活が送れるようになっている。持ち込みは自由で、家族と相談し衣装ケース、ハンガーラック、テレビ等をレイアウトし思い思いの生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり・スロープ・滑り止めなど取り付けています。		